東広島市立豊栄中学校　令和3・4年度の研究概要

研究主題　**豊かに自己を表現する生徒の育成　～多様な表現方法を通して～**

1　研究主題設定の理由

これからの時代を生きていく生徒たちは、身に付けた知識・技能を活用して、世の中の様々な課題に対応していかなければならない。答えがひとつではない問題に対する解決方法を模索する過程では、自分の考えを他者に伝える「表現力」は重要である。課題に対する自分の考えを、聞き手のニーズに応じた内容や、その場に応じた適切な方法を選び、豊かに表現できる力を育成する必要がある。

本校生徒の実態を見ると、小学校からの少人数による対人関係の固定化や、外部の人の前での発表など自分の考えを表現することに苦手意識を持つ生徒も多い。とりわけ、コロナ禍で対面形式での対話や合唱などの表現活動や機会が制限されるなかで、生徒の自己を表現する力には課題が見られる。以上のことから、生徒が自信をもって自分の考えを表現できるようにするためには、表現したい内容と、多様な表現方法を生徒自身が持つことが必要であり、研究主題を「豊かに自己を表現する生徒の育成～多様な表現方法を通して～」と設定した。

2　研究の構想

研究においては、3つの柱で取組を進めている。第1の柱は「授業改善」、第2の柱は「自己を表現する活動」、第3の柱は「特色ある教育活動」とし、研究構想図に表した。

本稿では、その中から 3 つの柱にかかわって、次の表の○印の下線部の取組を取り上げて、研究方法や内容を紹介する。

1　授業改善	2　自己を表現する活動	3　特色ある教育活動
○「各教科で身に付けたい『表現力』」の設定 ・「言語能力」「論理的思考」「多面的思考」「創造的思考」で考えを表現する姿 ○豊栄中授業スタイルの確立 ・見通し・思考・対話・表現・振り返り ○本質的な問いによる授業研究 ・自分の考えを持たせるための質の高い問いの検討 ●ICT の効果的活用 ・タブレットの文房具化 時間短縮　即時共有 ○英語科「5ラウンドシステム」による授業改善 ・「生徒が学んだ英語を使って自己表現できる英語力を身に付ける」ことを目指し、開発・実践されている英語科のカリキュラム	●各教科の授業における表現活動 ・ディベート　合唱 ●校内コンテスト ・委員会主催コンテストの実施 ○総合的な学習の時間における豊栄版「TED」 ・自分のことを自分の言葉で表現 ●地域人材を活用したキャリア学習 1年 職業調べ　インタビュー 2年 キャリアアドバイザー講話 3年 地域面接　出前授業 ●地域住民等との交流 1年 老人ホーム訪問 2年 職場体験学習 3年 こども園・地域サロン訪問	●生徒主体の学校行事 ・異年齢集団による学校行事 ○読書環境づくり ・校内図書館化 ・企画展示の充実 ○緑化活動・体力づくり ・委員会主導の伝統行事 ・小中連携（緑化・体力づくり） ○小中・中高連携 （連携型中高一貫教育） ・高校生との座談会（中 3） ・中高合同体育大会 ・中高合同実践発表会 ○地域連携（貢献・感謝）

令和4年度　研究構想図

東広島市立豊栄中学校

◎学習指導要領

◎GIGAスクール構想

◎「学びの変革」の推進

◎第5次東広島市学校教育レベルアッププラン

【学校教育目標】

よりよく生きる

～自律・貢献・感謝～

◇生徒の実態

・素直でまじめな生徒が多い。

・主体性や自己を表現する力に課題がある。

・自己肯定感の低い生徒がいる。

【身に付けさせたい資質・能力】

主体性　協働性　向上心

表現力　郷土愛　地域への貢献

【広島県の15歳に身に付けておいてもらいたい力】

自己を認識する力　自分の人生を選択する力　表現する力

【研究主題】豊かに自己を表現する生徒の育成　～多様な表現方法を通して～

授業改善

●「各教科で身につけたい『表現力』」の設定

●豊栄中授業スタイルの確立

●本質的な問いによる授業研究

●ICT の効果的活用

●英語科「５ラウンドシステム」による授業改善

自己を表現する活動

●各教科の授業における表現活動

●校内コンテスト
（作文、作品、発表など）

●総合的な学習の時間における TED トーク

●地域の人材を活用したキャリア学習

●地域住民等との交流

特色ある教育活動

●生徒主体の学校行事
（異年齢集団）

●読書環境づくり
（校内図書館化）

●緑化活動・体力づくり
（伝統の継承）

●小中・中高連携
（連携型中高一貫教育）

●地域連携
（貢献・感謝）

生徒指導の三機能を活かした教育活動（自己指導力の育成）

安心・安全な環境づくり　道徳教育の充実

3　第１の柱「授業改善」に係る取組

第１の柱「授業改善」においては、「各教科で身に付けたい『表現力』」を設定し、学習過程に「思考」「対話」「表現」の場面を位置付けた「豊栄中授業スタイル」を確立し、自分の考えを深めたり広げたりするために、「本質的な問い」に基づく授業づくりを進めている。また、英語科「5ラウンドシステム」という「生徒が学んだ英語を使って自己表現できる英語力を身に付ける」ことを目指し、開発・実践されているカリキュラムを導入している。

（１）各教科で身に付けたい「表現力」の設定

豊栄中学校で身に付けたい「表現力」を「自分自身のこと、自分の考えや思いを、相手に理解してもらえるように、自分の言葉で表現することができる力」と定義し、全教員と全生徒で共有している。

研究主題　　豊かに自己を表現する生徒の育成　～多様な表現方法を通じて～

豊かに自己を表現する力＝「自分自身のこと，自分の考えや思いを，相手に理解してもらえるように，自分の言葉で表現することができる力」

多様な「表現方法」の例＝TED，作文，レポート，グラフ，図表，絵画，写真，ポスター，プレゼンテーション，動画，歌，ダンス

各教科・領域等での「考えを表現する」姿の例

道徳・・自分の考えをもとに討論したり書いたりするなどしている。　特別活動・・気づいたことを振り返ったり、まとめたり、発表しあったりするなどしている。
総合的な学習の時間・・言語によりわかりやすく分析し、まとめたり表現したりしている。

英語	国語	数学	理科	社会	技術・家庭科	保健体育	音楽	美術
・目的や場面に応じて英語を用いて、コミュニケーションを図っている。	・人との関わりの中で互いの立場や考えを尊重し、言語を通じて正確に理解したり、適切に表現したりしている。	・数学的な表現を用いて論理的に自分の考えを表現し伝え合ったりしている。	・仮説を立てて観察・実験などを行う際、予想や仮説、検証方法を討論しながら考えを深め合っている。	・多面的に思考、判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりしている。	・生活や社会における活動を解決するために、図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどしている	・筋道を立てて練習や作戦などについて話し合う活動や、健康の保持増進や回復について話し合っている	・その曲固有の良さや特徴などを捉え、他者と共有、共感しながら音楽表現を創意工夫している。	・アイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりすることや、作品に対して批評している。

特別の教科道徳・総合的な学習の時間・特別活動

言語能力		論理的思考		多面的思考		創造的思考		

学習場面の例

○体験から感じ取ったことを表現する　○事実を正確に理解し伝達する　○概念・法則・意図などを解釈し，説明したり活用したりする
○情報を分析・評価し，論述する　○課題について，構想を立て実践し，評価・改善する　○互いの考えを伝えあい，自らの考えや集団の考えを発展させる

なお、各教科・領域等で「考えを表現する」生徒の姿を、「言語能力」「論理的思考」「多面的思考」「創造的思考」の4つのカテゴリーに分類し、それぞれ次のように設定し、教科担任同士の連携を密にしている。

言語能力　国語　英語 「コミュニケーション」「相手や場面を意識する」	**論理的思考**　数学　理科 「筋道立てて考える」「根拠に基づいて説明する」
多面的思考　社会　技術・家庭 「複数の資料を比較して考える」	**創造的思考**　音楽　美術　保健体育 「創意工夫する」「批評する」

（2）豊栄中授業スタイルの確立

豊栄中学校では、各教科等で、「自分の考えを表現する」授業づくりに向けて、基本的な授業スタイルを次のように設定し、全教科等で取り組んでいる。導入時では「見通し」を持たせること、展開時では「思考」し「対話」する場面、「表現活動」を位置付けることを重視している。そして、振り返り時では、めあてを振り返るだけでなく、「自分の考えを表現する」力の成長を実感させるような振り返りを行っている。

《豊栄中授業スタイル》

単元構想・授業前に…	
「本質的な問い」による単元構想	
授業展開	学習の流れ・全教科統一事項
導入	**1．学習の見通しを持たせる工夫** ① 「本時のめあて」の提示 ・「～ができる」「～がわかる」の形にし、本時で何が達成されたらよいのかを明確化 ・自己評価を伴う活動の際には、ルーブリックを提示 ② 「TO DO LIST」の提示 ・本時の学習活動を示し、「Now!」カードで現在どの活動をしているのかを明確化
展開	**2．自分の考えを持たせる工夫・対話場面の設定** ① 思考 個人思考の時間の確保 ・学習活動を精選し、じっくり考える時間を確保 ② 対話 対話場面の設定 ・自分の意見を持たせたうえで、多様な考えを交流させる場を設定 **3．めあて達成に向けた表現活動の設定** ③ 表現 付けたい「表現力」に基づいた活動 ・表現活動と、付けたい「表現力」との関わりを説明 ・ルーブリックを踏まえ、適切な支援
振り返り	**4．振り返りの工夫** ①「本時のめあて」に即した振り返り ・できたこと、わかったことについて振り返り ②「表現力」の振り返り ・単元ごと、学期ごとに自分の表現力、授業を通して「自分が考えたこと」について振り返り

（3）本質的な問いによる単元構想

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことについて、学習指導要領解説では「単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない」とされ、単元づくりの重要性が述べられている。このことを踏まえ、豊栄中学校では、各教科等で単元づくりを行う際に、三つの層（本質、単元、個別の授業）それぞれで、次のような問い設定し、単元構想を行っている。

① 本質的な問い（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

② 単元を貫く問い（単元を通して考え深めていく「問い」）

③ 個別の問い（単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等）

このような問いを設定し、単元を通じて自分なりの考えを持たせ、対話等の表現活動を学習過程に位置付けている。

《豊栄中学校で実践した「本質的な問い」の例》

○ 「文学作品を読む価値・意義は何だろうか」（国語科）

○ 「『日本』ってどんな国なのだろうか」（社会科地理分野）

○ 「事象の中に潜む関係とは？」（数学科）

○ 「物質が違う、同じ物体がたくさんあるのはなぜだろうか」（理科第１分野）

○ 「合唱の楽しさって何」（音楽科）

○ 「仮面が世界中で作られるのはなぜだろう」（美術科）

○ 「球技の楽しさとは何だろうか」（保健体育科）

○ 「より良い「衣生活」の実現のために何ができるだろう」（家庭科）

○ 「外国語が相手に伝わったらうれしいのはなぜだろうか」（英語科）

○ 「自分と地域のかかわり方をどう考えるか」（総合的な学習の時間）

（4）各教科における授業の実践例

【社会科 2学年】

日本の地理的特色と地域区分（9時間）

本質的な問い　「『日本』ってどんな国なのだろうか」

単元を貫く問い

「自分たちの住む日本の地域的特色って何だろう」

個別の問い

① 日本に山が多いのはなぜだろうか

② なぜ気候は変化に富んでいるのだろうか

③ なぜ、日本では過疎化・過密化が進んだのだろうか

④ 資源の少ない日本ではどのような産業が発達しているのだろうか

⑤ 日本では交通・通信網はどのように発達しているのだろうか

[授業の様子]

日本の地域的特色について、ある生徒は複数の資料の中から「日本の工業地帯」と「日本の人口密度」の資料を取り上げて比較し、「太平洋ベルト」地帯の人口密度が高いことがわかるという考えを説明していた。

【理科　1学年】

身の回りの物質（5時間）

本質的な問い　「物質が違う、同じ物体がたくさんあるのはなぜだろうか」

単元を貫く問い「身の回りで物質の違いを利用している場面はどこだろうか」

個別の問い

① 物質と物体の違いは何か　　② 有機物と無機物の違いは何か

③ 金属と非金属の違いは何か　　④ 金属の種類を見分けるにはどうしたらよいか

[授業の様子]

アルミ缶とスチール缶を、金属の性質を利用した分別方法を考え、実際に分別装置を作成し、装置を使いながら、実験方法を説明し合った。

【保健体育科　1学年】

球技「バレーボール」（8時間）

本質的な問い　「球技の楽しさとは何だろうか」

単元を貫く問い「バレーボールでラリーを続けるには
どうすればよいのだろうか」

個別の問い

① ラリーを続けるためにはどのような技能が必要か

② 真上にボールを上げるためには腕や足の使い方は
どのようなことを意識すればよいだろうか

③ ラリーを続けるためにはどのような練習の工夫が必要だろうか

④ 人と人との間にボールが落ちそうなとき、どうすればよいだろうか

[授業の様子]

バレーボールで楽しくラリーを続けることを目標にして、どう練習を工夫するかを交流し、グループで練習や振り返りを進め、実践することができていた。

【国語科　2学年】

話し合いで問題を検討しよう（8時間）

本質的な問い　「有益な話し合いに必要なものは？」

単元を貫く問い「相手を納得させるには何が必要か？」

個別の問い

① 説得力ある論証のために必要な要素は？

② ディベートで質問・反駁に留意することは？

③ 肯定的な立場で論証するには？ 否定的な立場で論証するには？

[授業の様子]

論題「生徒のネット・ゲーム利用時間を一日60分に制限すべきである」について、肯定・否定の立場に分かれてディベートを行い、何が論点になっているかを意識し、主張、根拠、論拠に分けて考えを整理していた。

(5) 英語科「5ラウンドシステム」による授業改善

本校では、令和元年度より、広島県の指定を受け、英語科では5ラウンドシステムを取り入れた授業を行っており、今年度で3年目となる。「5ラウンドシステム」とは、「生徒が学んだ英語を使って自己表現できる英語力を身に付ける」ことを目指し、開発・実践されている英語科のカリキュラムで、生徒が主体的に学び、英語を使って何とか表現しようとする姿が期待される取組である。

5ラウンドシステムの目的は、教科書を繰り返し使うことで、教科書本文を生徒が自己表現で使えるレベルまで染み込ませることである。授業の展開方法については、通常は1年間で教科書の各 Lesson を1回行う形式であるが、本システムでは1年間に教科書を4～5回繰り返し学習する方法である。また Round2は1年生のみとする場合が多いため、本校でも2・3年生では実施していない。

[通常]

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
Lesson	L1	L2	L3	L4		L5		L6		L7		L8

[本校が行う5ラウンドシステム(1年生)]

時期	前期							後期								
	帯活動					パフォーマンステスト	夏休み	帯活動					パフォーマンステスト	冬休み	まとめ	パフォーマンステスト
	R1	R2	R3	R4	R5			R1	R2	R3	R4	R5				
	L1 L2 L3	L1 L2 L3	L1 L2 L3	L1 L2 L3	L1 L2 L3			L4 L5 L6 L7 L8	L4 L5 L6 L7 L8	L4 L5 L6 L7 L8	L4 L5 L6 L7 L8	L4 L5 L6 L7 L8				

各ラウンドの学習内容と目的はありながらも、活動を目的とするのではなく、どのラウンドにおいても各言語活動を通して教科書本文をインプットすることを念頭において指導を工夫することが大切となる。また、Round5のリテリングがゴールではなく、教科書本文から離れた様々な状況や場面で意見や感想を言ったりすることで、このラウンドで染み込んだ言語材料を生かした自己表現に挑戦できるよう、ウォームアップ(帯活動)の設定が重要となる。したがって、通常1時間の授業では、帯活動を15分程度、ラウンドを35分程度で構成している。こうして日々の授業で取り組んでいること基に、目的・場面・状況を明確にしたパフォーマンス課題を設定し、生徒の学びを見取っている。

このように、帯活動・5ラウンドシステム・パフォーマンス課題を通じて一体的な指導を行うことにより、生徒の表現力向上につなげるよう取組を進めている。

[各ラウンドの学習内容と目的]

Round	学習内容	目的	
1	リスニングによる内容理解	教科書本文のインプット	何度も英文を聞くことで、音声のみのインプットから物語の概要をつかむ。
2	本文の音・文字の一致		英語の音と文字の一致をさせる。
3	音読		発音・イントネーション等を踏まえた音読に取り組むことにより、インプットの質を高める。
4	穴あき音読		自分の表現に結び付けられるよう、フレーズや言語形式に着目させる。
5	リテリング		教科書のストーリーを自分の言葉で伝える。

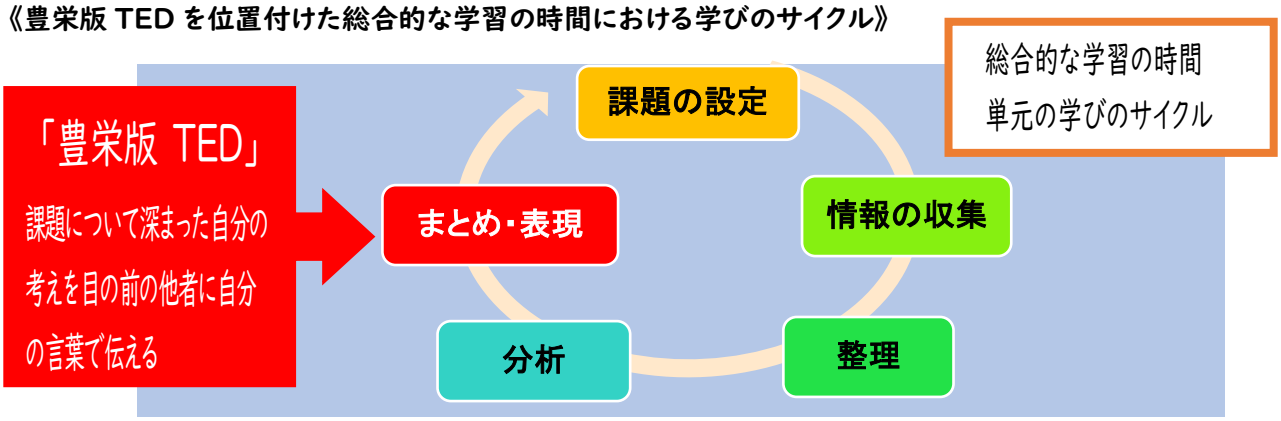
4 第2の柱「自己を表現する活動」に係る取組

第2の柱は「自己を表現する活動」に係る取組である。広島県では、「広島県の 15 歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」として、「自己を認識する力」、「自分の人生を選択する力」、「表現する力」を設定し、公立高等学校入学者選抜の「自己表現」において、こうした力がどのくらい身に付いているのかを評価することとしている。生徒一人一人が、自分の夢や目標を大切にして自分らしい学校生活を送り、自分のことや自分の考えを安心して他者に表現することができる力を育むために、豊栄中学校では、総合的な学習の時間における「豊栄版TED」を核とした活動で、自己実現につながる取組としている。

(1)総合的な学習の時間における「豊栄版TED」

プレゼンテーションとして、世界的に有名な「TED(Technology Entertainment Design)」を参考にし、豊栄中学校では、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」という課題発見・解決学習の流れを踏まえ、その「まとめ・表現」に「豊栄版 TED」(Talk Expression Do)と名付けた表現活動を行っている。「豊栄版 TED」は、「自分自身のこと、自分の考えや思いを、相手に理解してもらえるように、自分の言葉で表現する」表現活動であり、総合的な学習の時間では、課題に対する自分の考えを、目の前の他者(外部人材等)に自分の言葉で伝えるという活動となる。

《豊栄版 TED を位置付けた総合的な学習の時間における学びのサイクル》



令和3年度は、全学年において、一人一台端末を活用しながら、「豊栄版 TED(以下 TED)」に取り組んだ。例えば、自分の好きなことや趣味についてスライドを使って表現する生徒や、豊栄町の魅力を生かしたお弁当や地域センターを宿泊施設にするという地域貢献に関する提案をする生徒もいた。

令和4年度は、新しい生活様式を踏まえ、地域の地元企業や自治体等と連携し、総合的な学習の時間を中心に、各学年で、次のようなテーマや計画で取り組んでいる。

《「TED」のテーマ例》

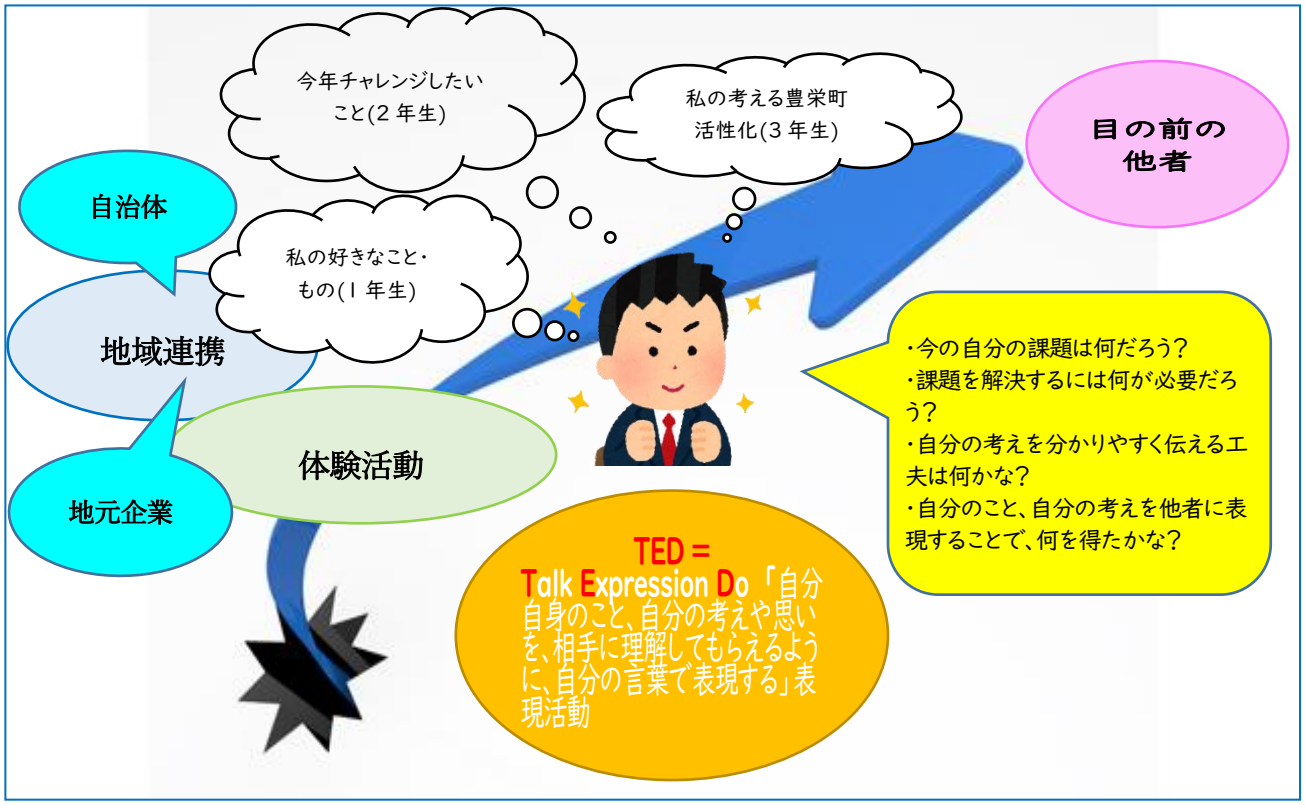
1年生 「自分の好きなこと・もの」 「私の考える豊栄町の魅力」(地域調べ)
2年生 「私が今年度チャレンジしたいこと」 「私の考える豊栄町で働く意義」(職場体験)
3年生 「自分の良さなどの自己紹介、学校紹介」 「私の考える豊栄町活性化」(地域サロン訪問)

【令和4年度　年間 TED 計画】「」内は発表テーマ　★は地域の方や連携校の高校生へ向けた発表会

時期	1 年生	2年生	3年生
5月～ 7 月	「自分の好きなこと・もの」	「私が今年度チャレンジしたいこと」	「自分の良さなどの自己紹介、学校紹介」 「私の考える豊栄町活性化」 （★地域高齢者サロン訪問）
	★自己表現活動発表会 豊栄町の自治体と連携し、地元企業等の社会人対象		
9 月～ 11 月	「私の考える豊栄町の魅力」（地域調べ）	「私の考える豊栄町で働く意義」（職場体験学習）	「私の考える豊栄町活性化」
	★地域面接	★職場体験学習報告会	★地域面接
12 月～ 2月	「1年間の学習のまとめ」校内実践発表会		
	★中高合同実践発表会（豊栄中学校・賀茂北高等学校）		―

総合的な学習の時間における TED においては、「広島県の 15 歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」である、「自己を認識する力」、「自分の人生を選択する力」、「表現する力」の育成を踏まえ、自分のこと、自分の故郷のこと、自分の考えをしっかり持たせるための課題設定、そして地域の自治体や地元企業等と連携し、本物に近い体験をさせることを工夫した。次の図のようなイメージである。

《総合的な学習の時間における TED のイメージ》



（2）「TED」を核とした総合的な学習の時間の実践例

【総合的な学習の時間　2学年】 豊かに自己を表現しよう

本質的な問い　「『自分』ってどんな人間なのだろうか」

単元を貫く問い「自分がチャレンジしたいことは何だろう」

個別の問い

① 今の自分の課題は何だろう

② 今の自分が興味あることは何だろう

③ 課題を解決するには何が必要だろうか、興味あることにチャレンジするには何が必要だろうか

④ 自分の考えを分かりやすく伝える工夫は何か

⑤ 自分のこと、自分の考えを他者に表現することで、何を得たか

[授業の様子]

第2学年では、豊栄町の自治体と連携し、地元企業等の社会人9名の前で、「今年度チャレンジしたいこと」等についてのTEDの場（3名×3ブース）を設定し、企業等の面談に近い形で質疑応答などセッションも行った。地域の社会人の方に向け、自分自身に関することを自分の言葉で伝え、質問にも一生懸命答えている姿が見られた。

生徒は、地元企業等の社会人との TED やセッションを通じ、地域の課題や地元企業等の取組に関心を高め、10 月の職場体験に向けて、「地域へ貢献」という課題を設定し、取り組んでいる。職場体験先では「地域の課題解決」「自己を表現する力」の育成にかかわる場面設定を依頼し、働くことを意識しながら、地域や自分の将来の姿を考えたり、自分のよさや可能性を発見したりし、「私の考える豊栄町で働く意義」としてまとめ、職場体験先の方にTEDとして伝える。

【総合的な学習の時間　3学年】 郷土で共に生きる

本質的な問い　「自分と地域のかかわり方をどう考えるか」

単元を貫く問い「高齢化の進む豊栄町で何ができるか」

個別の問い

① 豊栄町の高齢化の実態とはどうなのか

② 高齢者が求めているものは何だろうか

③ 高齢者と交流するときに、必要なことは何だろうか

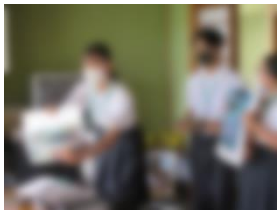
④ 地域の中で共に生きていく上で大切なことは何か

[授業の様子]

第3学年では、地元の社会福祉協議会と連携し、地域内のサロンへ訪問を行い、自分のこと、学校のことについての TED をパネル写真等を使って伝えたり、お年寄りの方から昔の地域の様子や高齢化に伴う思いなどを聞いたりするなどのTEDを通じた交流活動で、今後の自分の生き方と照らして考える機会となった。

事前準備 TED 作成
サロン訪問に向けて、学校紹介・自己紹介等のTEDについてわかりやすく説明できるよう、グループごとに協力してポイントを整理する。

TED リハーサル
社会福祉協議会の方に、高齢者への TED を意識した発表を聞いていただき、改善点を指導していただく。



地域サロン交流会当日の TED の様子
2～3 名ずつに分かれて、地域の高齢者サロンを訪問。パネル写真を提示するなどして分かりやすく TED で学校紹介や自己紹介をすることができた。それをきっかけに地域の方から、昔から今に至る豊栄の様子や思いなどを聞き、交流を深めた。

5 第3の柱「特色ある教育活動」に係る取組

第3の柱は「特色ある教育活動」に係る取組である。生徒一人一人が、自分の夢や目標を大切にして自分らしい学校生活を送り、「自己を認識する力」、「自分の人生を選択する力」、「表現する力」を身に付けていくためには、日々の学校生活の充実が大切である。本校における「特色ある教育活動」は、自分らしさを発見・発揮する場となる。小規模校ならではの異年齢集団による学校行事、校内を丸ごと図書館化していく取組、伝統的に取り組んでいる緑化活動や体力づくり、連携型中高一貫教育、地域との連携などは、本校の学びを豊かにする取組となっている。これらの取組が、公立高等学校入学者選抜の「自己表現」に資する可能性を期待している。

（1）読書環境づくり ～校内図書館化～

学校の玄関を入ると、真っ先に目に入るのが図書館であり、生徒からは「天井が高くガラス張りで開放的な空間」「新たな発見ができて、居心地の良い場所」などの声がある。校内のあちらこちらに、先生たちや生徒のおすすめ図書コーナーを設置しており、時期に応じて「表現力」「キャリア教育」「科学」「英会話」等に関する図書コーナーも設置した。学校のあちらこちらに図書を並べ、手に取りやすい環境にしようと取り組んでおり、学校全体が図書館のような環境となりつつある。生徒はさまざまな種類の本に出会いやすくなっている。

（2）緑化活動

豊栄中学校では、緑化活動を伝統的に行っており、生徒主体の環境委員会が活動の中心となって次のことに取り組んでいる。

・花文字 ・グリーンカーテン ・緑化集会
・HP 作成 ・花の手入れ動画作成
・小学校や認定こども園にマリーゴールドの苗を贈呈（小中連携）

（3）連携型中高一貫教育（県立賀茂北高等学校）

本校は、県立賀茂北高等学校との連携型中高一貫教育校として、特色ある教育活動を行っている。国語・数学・英語科の2・3 年生の授業では、高校の先生とティーム・ティーチングを週１回行い、中高合同の行事として、9月には合同体育大会を実施したり、2月には合同実践発表会などを計画したりしている。

６月には、本校３年生と賀茂北高校３年生による座談会を、保護者も参加して実施した。3 年生にとっては高校生の視点で、今の自分を見つめなおす機会になった。本校３年生のたくさんの質問について、豊栄中学校の卒業生でもある高校生は、後輩のために一生懸命に対応した。本校生徒からは「高校生のお話を聞き、中学校生活の一つ一つを大切に過ごし、クラスメイトとたくさん話をしておきたいなと思った」「勉強方法をたくさん知ることができ、自分に合う方法で受験や将来に向けて挑戦していきたい」「高校生活の楽しさを知ることができた」「表現力を身に付けていきたい」などの感想があった。

（4）地域連携

本校は、信頼される学校、地域の活性化に貢献できる学校づくり、地域に感謝し、貢献しようとする生徒を育成することを目指している。総合的な学習の時間における地域人材の活用や高齢者サロン訪問以外でも、コロナ禍における感染症対策を講じながら、次のような地域との連携を進めているところである。

○セントルマルシェで豊栄活性化アイディアを発表：１年生	○「豊栄」郷土カルタの制作・活用：総合文化部・１年生
○商店街シャッターアートへ参加:総合文化部・有志	○「とよさかのうた」制作プロジェクト 音楽科：音楽ユニットによる出前授業（全学年）

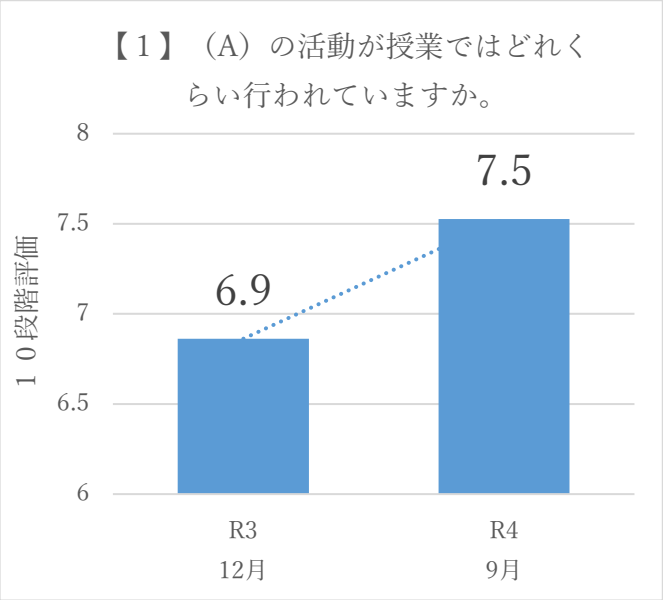
6 研究の成果と課題

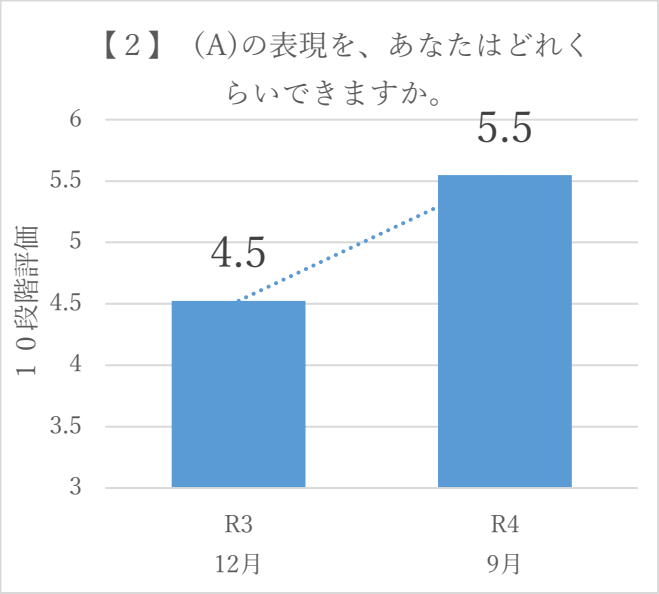
生徒意識調査や全国学力・学習状況調査等から、次のような成果と課題が見られる。

(1) 生徒意識調査

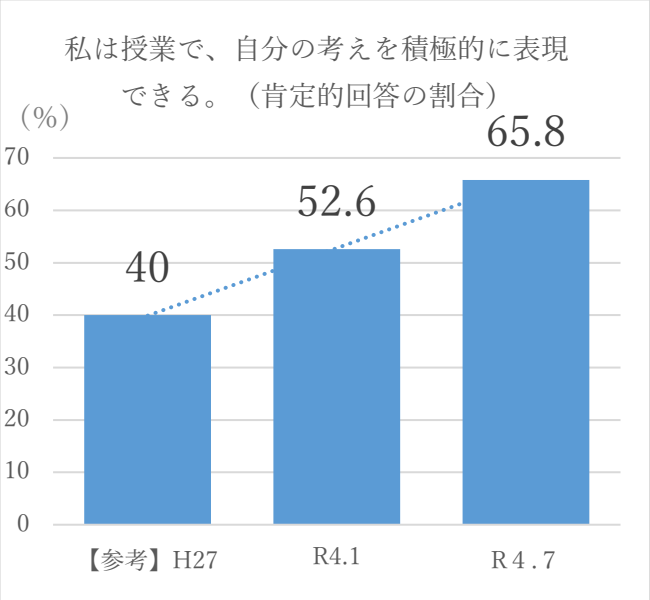
<生徒意識調査①>

(A)「授業において、教科で学習する専門的な知識や考え方を用いて、自分の考えを相手に伝わるように話したり書いたりする」





<生徒意識調査②>



【分析と考察】

意識調査①では、質問項目【1】【2】ともに、研究開始当初の令和3年 12 月の調査よりも数値が上昇している。

意識調査②での肯定的回答の割合は、令和3年度1月には 52.6%であったものが、令和4年度7月調査では 65.8%に上昇した。特に3年生は1月調査では肯定的回答が 27.0%であったものが、7月調査では 62.0%まで上昇している。

本校では長年、表現力の育成に課題があったが、授業改善をはじめ、学校教育活動全体を通した表現の場を設定したり、多様な表現方法を取り入れたりしたことで、成果が徐々に表われはじめている。

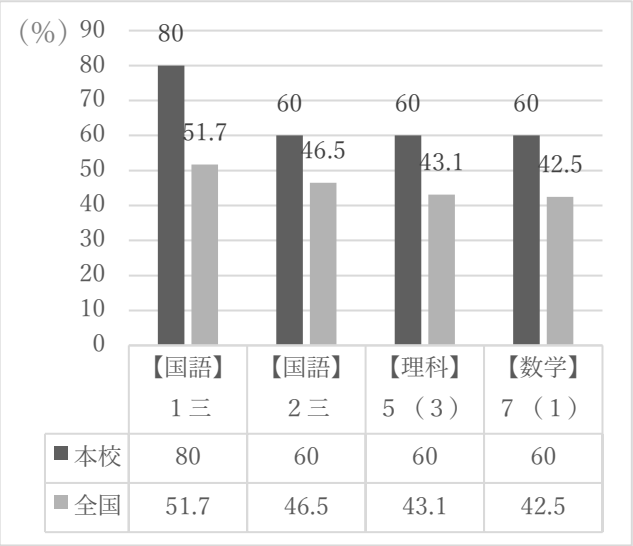
※【参考】H27は「基礎・基本学習状況調査」の「授業では自分の考えを積極的に伝えています。」の肯定的回答

(2) 全国学力・学習状況調査

＜令和4年度全国学力・学習状況調査の結果より＞

●表現（自分の考えを記述すること）に関わる問の通過率

問題番号	出題の概要
【国語】1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く
【国語】2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える
【理科】5(3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定値を増やすかを説明する
【数学】7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する



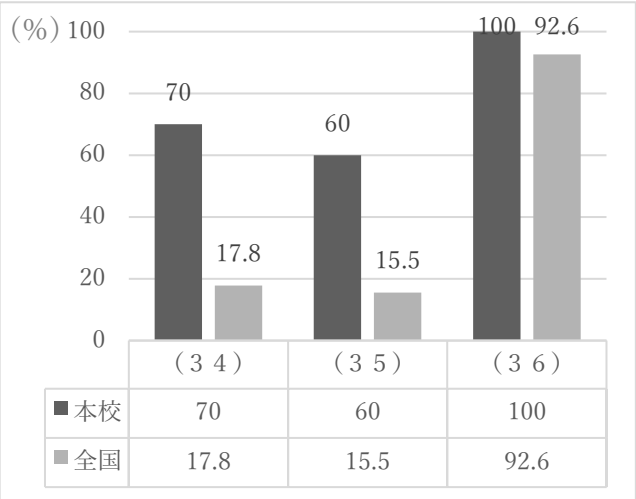
【分析と考察】

自分の考えを記述したり説明したりすることに関わる問いの通過率が三教科とも全国平均を超えている。

「豊栄版 TED」の取組では、地域の事業所の方や高齢者に対して発表をした。その結果、振り返りには、相手意識の大切さについての記述が多く見られた。また、本校では国語科に限らず、さまざまな教科で自分の考えを、どのように表現すれば相手によりよく伝わるか考えさせる場面を授業の中に多く設定している。このような取組が今回の結果に繋がったと考えられる。

●ICT 活用に関して

質問番号	出題の概要
34	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか（週3回以上と回答した生徒の割合）
35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか（週3回以上と回答した生徒の割合）
36	学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか（肯定的回答）



【分析と考察】

「多様な表現方法」のなかに、ICT 機器の活用がある。本校では、意見交換、発表の場面では、たびたびそれらを活用した授業を実施している。今回、100%の生徒が、「ICT 機器を使うのは勉強の役に立つ」と実感している。

ICT の活用に関しては、さらに研究を深め、豊かに自己を表現するツールとして活用させたい。

（3）生徒の変容

研究を通しての生徒の変容を、表現力に課題があった２名の生徒Ａ・Ｂの例をもとに紹介する。

事例１：生徒Ａの感想欄の記述の変化に見られる表現力の向上

生徒Ａは、「表現」に自信がない生徒であった。このことは、前出の、「生徒と意識調査②」の問いに対し、R3年１２月のＡの回答が、２.８点（全校平均４.５）であったことからわかる。これはかなり低い値である。しかし、令和４年９月の調査では、2倍の、5.6点（同5.5）に上昇した。次の表は、生徒Ａが理科の授業で、単元のまとめを作成しているレポートの感想欄の記述である。生徒Ａの表現力の向上は記述の変化から見て取れる。

学年	2年（7月）	2年（12月）	３年（9月）
タイトル	原子	雲のできる仕組み	細胞分裂の仕組み
感想	私はもっとたくさんの原子の記号や性質についてしりたい。	この単元が苦手だったけど実験を通して大体のことは理解できたが前線があまりわからなかった。	私は細胞がいつ古い細胞が新しい細胞と入れ替わるのかが知りたいです。私は細胞にも寿命があると思うので、いつ細胞が寿命を迎えるのか、生物の種類によって違うのかをもっと探究していきたいなと思いました。

事例２：生徒Ｂのワークシートの記述の変化に見られる表現力の向上

学年	２年（11月）	３年（９月）
課題	１番の歌詞の表現にふさわしい強弱記号を書き、なぜそのようにしたのか理由を書きましょう。	D（曲の山場）の部分を盛り上げるためにBCの部分をどのように歌いたいですか。
記述	サビの前なのでだんだん盛り上がるようにした。サビでいっきに最高の盛り上がりを見せる。	Dの部分を目立たせるように歌いたいと思いました。だから、Bの部分では優しく、オブリガートと主旋律４：６くらいの割合で歌いたい。Cの部分はDに向かって全パートだんだん強くしていきたい。

生徒Ａは、記述が苦手な生徒であった。２年（11月）の記述では、強弱を「盛り上がる」という言葉のみで記述しており、この記述を読んで他者が歌う際は、表現することが難しい。しかし、３年（９月）の記述では、音楽の諸要素のテクスチュアと強弱に着目し、思考することができている。また、音楽科特有の言葉を活用し、具体的な数字を記入していることからも、他者も声量を理解しやすい記述になっている。

（4）成果と課題、今後の展望

成果と課題

- 研究の指標とする生徒意識調査、学力調査等において、研究開始時と比較して数値の向上が見られた。ICT 機器を活用して考えたり表現したりする習慣も身に付いてきており、豊栄中授業スタイルで思考し対話するなどの多様な表現を用いた展開は、自己を表現する生徒の育成に効果的であったといえる。
- 意識調査で、当初低い数値を示していた ３ 年生の生徒が改善の傾向を示している。表現することや記述に課題のある生徒においても、学校生活の様々な場面で自分の成長を実感し、表現することに対して、満足感や喜びを持たせていくことが重要であると考える。
- 教員は、各教科・領域等で身に付けさせたい「表現力」を、学習指導要領等を基に整理した後、目指す生徒の姿を具体化するために「学習場面の例」を整理し、教科ごとに「考えを表現する姿の例」にまとめた。その過程で９教科を、「言語能力」「論理的思考」「多面的思考」「創造的思考」の４つのカテゴリーに分類し、グループごとに研究授業を進めるなど、校内でベクトルを揃え「豊かに自己を表現する力」の育成に取り組んできた。その結果、各教科、総合的な学習の時間の単元開発につなげることができた。
- どのような相手に、何のために何を表現するのか。相手意識や目的意識を高めるとともに、自己の内面に表現したいことや、その材料となる体験がなければ、「豊かに自己を表現する」場面につながらない。地域の人材等を活用し、開かれた教育課程の視点で、単元づくり等の教育活動の充実を図る必要がある。

今後の展望

- 令和５年度公立高等学校入学者選抜の「自己表現」の評価がスタートする。生徒一人一人が、自分の夢や目標を大切にして自分らしい学校生活を送り、自分のことや自分の考えを安心して他者に表現することができる力を育むために、研究の成果と課題を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの充実を図っていきたい。